

保谷町、泉町、住吉町、東町のみなさん ご存じですか？

西東京市では保谷町浄水所が

給水区域一東町、泉町、住吉町、保谷町、
中町、東伏見、柳沢、富士町

都水道局の汚染監視強化の対象となっています

※給水栓(蛇口)では暫定目標値を下回っています。

東京新聞が「発がん性疑い『PFAS』多摩地域で大規模血液検査 市民団体が11月23日から」
大きく報道「米軍横田基地周辺井戸水から検出」(11月13日付、見出しはweb版より)

西東京市も市民団体の血液検査の対象になっていました…。そこで大竹あつ子は調査を開始!

そもそも PFAS(ピーファス)って何?

PFAS(有機フッ素化合物)は泡消剤や撥水(はっすい)加工品などに使われる合成化学物質の総称。1950年代から家庭や空港などで広く使われていたが、自然分解されにくい性質や健康被害への懸念から、PFASの一種のPFOSは2009年、PFOAは19年にストックホルム条約で製造・使用が原則禁止された。国内では20年に暫定目標値として、PFOSとPFOAの合計を水道水1ℓ当たり50ナノグラム以下と設定した。(2022年11月13日付「東京新聞」より抜粋)

横田基地周辺の井戸から検出

「横田基地が疑われるのは、英国人ジャーナリストが2018年、基地内の泡消剤3000リットル以上が10~17年に土壌に漏出したと報じたからだ。これを受け都が基地周辺の井戸を調査し、高濃度のPFASを検出。府中武蔵台(府中市)、国立中(国立市)、東恋ヶ窪(国分寺市)の浄水所3カ所の一部井戸水からの取水が停止された。今も国の暫定目標値を上回り、停止は続いている」(2022年11月13日付「東京新聞」より抜粋)



なぜ保谷町浄水所が監視強化の対象になっているの？

PFOS及びPFOAの合計が給水栓(蛇口)において暫定目標値を上回った、又は上回るおそれのあるとして2020年11月より監視強化の対象浄水施設になっています。

※給水栓(蛇口)では暫定目標値を下回っています。

西東京市には3つの浄水所があり、PFASが蛇口(給水栓)では暫定目標値内ですが検出されているのは保谷町浄水所だけです。保谷町浄水所だけ井戸水(地下水)の割合が突出して多いからと、考えられます。



※令和4年7月~9月の給水栓での最高値。栄町浄水所、芝久保浄水所は未検出。保谷町浄水所は14ナノグラム。監視強化後の最高値は36ナノグラム。

大竹あつ子は市議会で質問(11/21)。引き続き追及します！

保谷町浄水所が都の監視強化の対象になっていることは市長にも知らされていませんでした。都水道局は原因については特定不可能としています。しかし、多摩地域の一部で井戸水(地下水)に基準を超える有機フッ素化合物が検出されているのは事実。

水は直接、体に入る命に欠かせないもの。暫定目標値内とはいえ、長い年月を経て蓄積されると言われる物質について、小さな

お子さんがいる方などは心配に思うのは当たり前前の感情ではないでしょうか？

大竹あつ子は井戸水(地下水)を混ぜないようできないのかを質問しましたが、市はできるかどうか把握していませんでした。市に市民説明会の開催を求め、都水道局まかせではなく市は市民の安全・安心のために動くべきと強く訴えました。引き続き、追及します。



市議会議員 現在2期目
文教厚生委員会委員長

日本共産党

大竹あつ子



他の自治体の動き

- 府中市 市議会が汚染の原因究明を求める意見書を採択(2021年3月)
- 国立市 市議会が都に血液検査などを求める意見書を採択(今年9月)
- 国分寺市 市内の防災井戸23ヶ所を調査、6ヶ所で国の暫定目標値を超えたことを確認